

ようこそ 囲いやまの森へ

この森がある金ヶ作から五香にかけての一帯は、江戸時代の1782年に、川越藩の郷士が入植して開拓が始まりました。翌1783年には、浅間山の大噴火で火山灰の被害を受け、安全祈願のために、熊野神社（この森の南隣）が祀られました。

1960年頃までは、建築材、薪炭用の原木、堆肥用の落ち葉、燃料用の枯枝などを得る場として活用されていましたが、石油やプラスチック、化学肥料が使われるようになってからは、ほとんど森は用がなくなってしまいました。そのため、長い間人手が入らず、木が伸び放題になり、アオキやササなどの藪が生い茂るようになりました。光が入らないために、木は背ばかり高くなり、ヒヨロヒヨロの木が多くなっています。

松戸市では、2003年から「里やまボランティア入門講座」が開講され、修了生を中心に、毎年新しい里やま活動団体が生まれています。そして、松戸市の尽力もあり、管理が行き届いていない民有林のお世話をする活動が広がっています。これまでに14団体が結成され、「松戸里やま応援団」を構成しています。現在、16か所で森の手入れ作業を行うとともに、都市部に残された貴重な樹林地で、子どもたちの自然観察や森体験などの活動を展開しています。

松戸里やま応援団について、2021年1月 ちば里山アワード ちば里山大賞（知事賞）受賞、2016年6月 全国みどりの愛護のつどい表彰、2010年10月 みどりの都市賞受賞等の栄誉があります。今後も運営委員会の充実を図り 繼続した活動推進、カシナガ穿入によるナラ枯れ対策に取り組み 良好な都市樹林を確保する活動を継続する所存です。。

この森は、里やまボランティア入門講座の2期生を中心とする「囲いやま森の会」が、2005年春から活動を始めました。当初は陽光の入らない暗い森で、全く先が見通せない藪状態でしたが、作業広場や通路を切り開き、中心部のアオキなどを刈り払い、南部の草地の除草などで、現在の姿に至っています。その間、森の整備をするだけでなく、明るくなった森の姿を知っていただき、公園ではできない自然観察や体験活動などにも取り組んでいます。この森は およそ南北200m 東西100m、約2haあり、ウグイスやコジュケイ、コゲラやシジュウカラ・ヤマガラなど、多くの生き物の生活の場となっています。そのため、人の活用地域は半分以下にとどめ、その他はあまり手を入れずに保全しています。

鮮やかな木々の新緑、小鳥のさえずり、枝のそよぎや風の音、ふかふかの地面の感触など、とても町の中とは思えない心地よい環境をお楽しみください。そして、都市に残された貴重な樹林地の環境保全へのご理解とご支援を、心からお願い申し上げます。

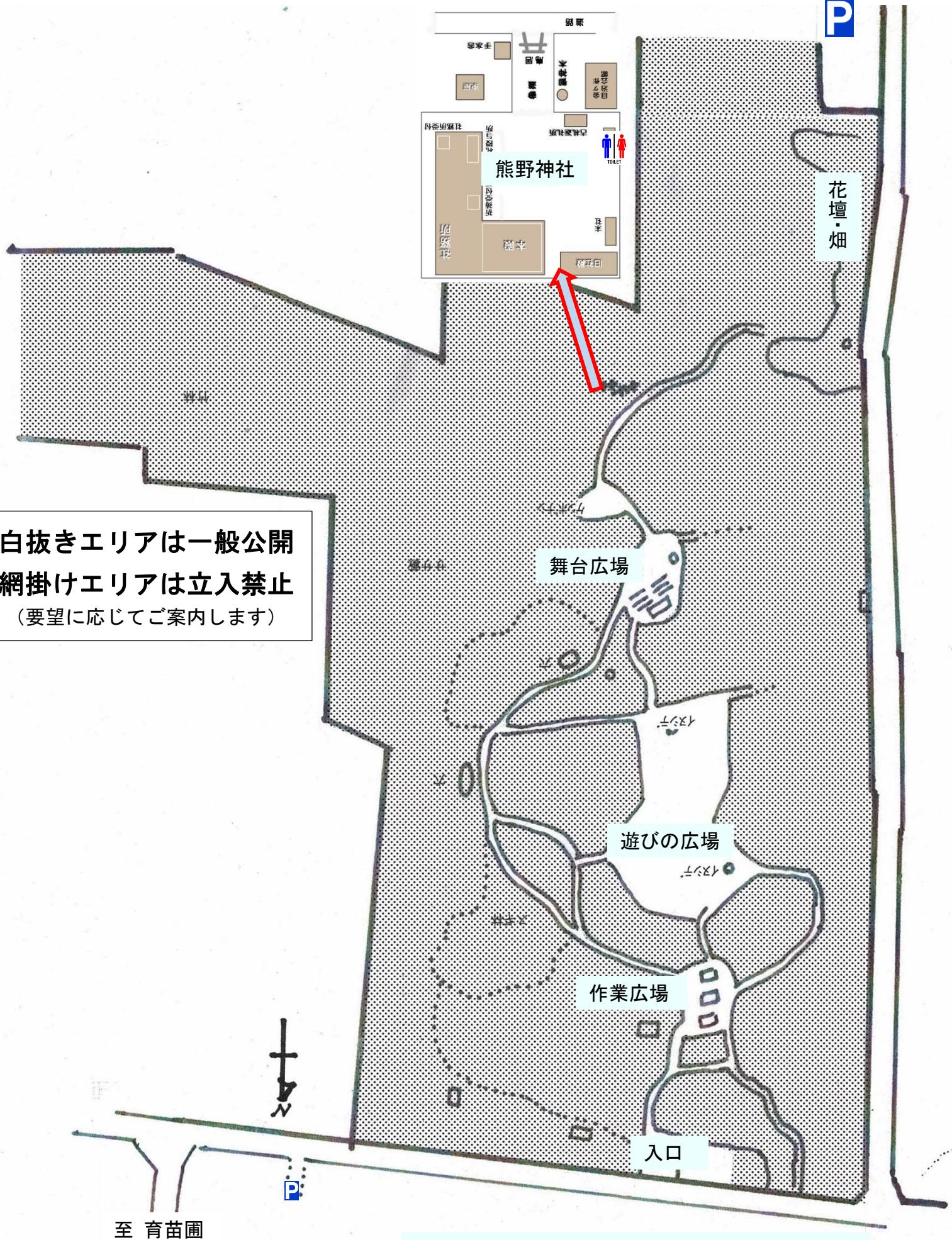


松戸里やま応援団 囲いやま森の会

森の活動日：

代表 壱岐 貞俊 TEL047-346-7063

第1土曜日・第3火曜日の午前中



いやまの森